

第1回外部識者検討会 議事メモ (2024/6/24)

参加者

外部識者委員

大崎 洋 一般社団法人 mother ha.ha 代表理事、吉本興業ホールディングス株式会社 元会長
久米 信行 株式会社久米繊維工業取締役相談役 (当会理事)
武井 涼子 フェリス女子大教授、ヤンマー取締役 (当会理事) ※6/24 は欠席
原 正隆 元NHK伝統芸能部チーフディレクター
齋木 彩染 彩佑流 宗家、高校校総合文化祭参加チーム指導者 (六本木高校)

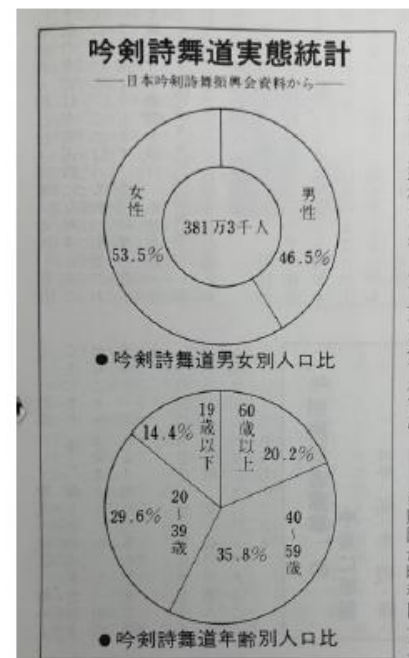
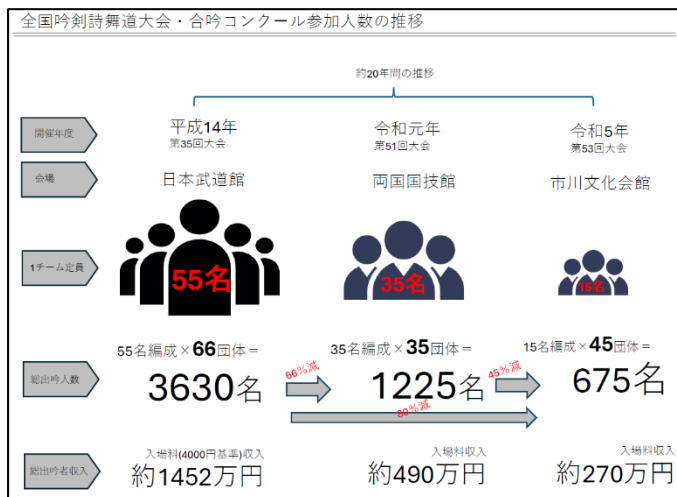
当会

沼崎富会長
徳田寿風副会長
早淵鯉將副会長
池内賢二専務理事
鈴木吟亮理事

●現状のご報告

池内専務より ～鈴木吟亮理事作成の資料に基づいて～

<図1>平成9年(財団全体)
財団創立30周年時の調査結果



- ・平成14年と比較すると1/6に。
- ・平成9年度に財団設立30周年に詩吟人口を調査した情報(調査方法は不明)によると300万人超。
- ・平成28年におこなった都道府県総連ごとの調査では10万人。ただし、あるところは「2万人」など、かなりまるまった数字での報告もあり、各都道府県でバラつきがあった。当時、調査方法にも一定の基準を設けていない。
- ・9年ぶりに、前回と近い調査方法で各都道府県の吟剣詩舞人口を調査する。

●自由討論

例として、以下のテーマについて提示

- ・若年層へのアプローチ
- ・地域社会との連携
- ・教育プログラムの拡充

(久米)

- ・子ども食堂や学童保育で教えてみてはどうか。
- ・1997年、新日本フィルオーケストラは、本拠地を墨田区に移転したが、その際に、墨田区との交換条件として、毎年、地元の小中学校で授業を行っている。
- ・今では、墨田区の成人式は新日本フィルのコンサートであったり、地元割引もある。
- ・ふるさと納税なども使いながら、地元ゆかりのものを学校の授業に取り入れている。
- ・小学校で配られたタブレットにはコンテンツが少ないので、そこへ詩吟の指導へ行っているものを録ってコンテンツにして流すのもいいのでは。

(大崎)

- ・吉本時代（10年ほど前）に、沖縄の那覇市に専門学校をつくった（ダンス、声優、カメラマンなど）。その1Fを子ども食堂にした。
- ・専門学校の生徒たちが、毎日その食堂で、子供たちに自分たちの発表をしていた。
- ・今、コミュニケーションが苦手な子供が多く、大阪市内の学童に芸人さんたちが行ったりしていた。
- ・15年ほど前、幕張のイオンモールに客先数が100席ほどの小さな劇場をつくった。イオンモールさんには家賃を無料にしていたが、それでも赤字だった。そこで一番ヒットしたのが、地元の職人さんや、農家の方、お年寄りを先生に迎え、地元の子供たちが、芸人さんと一緒に生徒になって学ぶ、というもの。
- ・決して有名な芸人さんではなかったが、子供たちにとっては「きのう芸人さんとこんな勉強をした！」と、家や学校でも伝え、子供にとってはすごい自慢になったようだ。
- ・10年ほど前だが、中国で京劇が衰退していったが、ネットで京劇を観られるようにしたところ、お年寄りは、ネットで観られることに感動し、舞台へも観に行くように。
- ・デジタルハーツ社（eスポーツの会社）には、ニートや引きこもりの若者が8,000人いる。その方たちが、ゲームのバグ（不良）を見つけて綺麗にする。
- ・その会長である宮沢氏から、「シルバーeスポーツやりたい」と提案があった。おじいちゃんやおばあちゃんがゲームが上手いとなると、孫や子供が尊敬するとのこと。
- ・今準備中。全国8カ所で大会をし、万博期間中に全国大会をし、万博おわりで世界大会をする。
- ・年寄りのeスポーツのマーケットが世界にはまだない。
- ・引きこもりやニートの若者が老人のコーチとなり、ゲームを教える。代わりに老人たちが若者たちへ、ごはんの心配や礼儀、あいさつの大切さなどを教える。（ゲームのスイッチの

ON/OFF は、あいさつと一緒に)

(大崎)

・島口哲朗という人物が「劔伎衆かむゐ」というグループを結成し、サムライアーティストとして、一年のうち1／3は海外(ヨーロッパ)に行っている。海外では大人気で、その人気をどうやって国内にフィードバックするか。日本人は海外からの逆輸入にとびつく傾向があるので。

・フランスで行われる Japan Expo の、in JAPAN (それこそ逆輸入) が開催されるが、そこに吟剣詩舞が入るとかはどうか。

・やるにあたり、何を守り、何を変えても良いの見極めが重要。

(久米)

・北斎の生誕の地である墨田区で、北斎美術館の設立時も地元から大反対。東日本大震災の影響で建築費が高騰したため。

・数年前、スウェーデンで、「北斎」という創作能を作って公演にいったら大人気。国内は能楽堂の観客は高齢者がほとんどだが、スウェーデンではTシャツデニムの若者もいた。

・海外には日本大好きの人がたくさんいる。

・ただ詠うのではなく、やはりバックが大切。日本的なもの(北斎、廣重・・・)。

・マンガきっかけ。おじいさんや、おじさんがやるようなものを、若い女の子がやる、というのがポイント(ちはやふる、ゆるキャン、ヤマノススメ など)。

・若い人は聖地巡りもするので、聖地ごとにある短歌や俳句などをうたっているマンガ、アニメがあれば。

・TikTok のダンス動画など、教えなくてもその動画を真似して、それが拡散する仕組みがあるので、その辺をうまく使ってやるといいかも。

・海外の人たちは多分真似するかと。YouTube やマンガ、アニメを見て日本語を覚えた、という留学生が結構多い。

(早淵)

・祖父の時代からのルールだが、動画をアップするのが禁止。お弟子さんたちのお月謝で生活しているため、お弟子さんたちからすると「お月謝払っているのに、タダでお稽古できるじゃないか!」ということになってしまう。

・そのため、私の時代になってからは、一部分だけ抜いた動画をアップすることを認めている。

・お月謝で生活している人間がパフォーマンスの方に行こうとすると、「もっとお稽古をして欲しい」、ボランティアに行こうとすると「私たちはお月謝を払っているのに」と。一番の葛藤する部分。

(大崎)

・吉本の歴史の中での話。人力車で移動する時代、当時大人気の桂春団治さんへ、NH のラジオ（大阪放送局）から、春団治さんに直接オファーがあった。吉本の会長以下全員、ラジオで無料で聴かれたら、演芸場に人が来なくなるだろう！とバリケードを張って反対した。しかし、春団治さんは裏口から入り、放送された。ただ、ラジオを聞いたお客様が、翌日劇場に来た。そのことから、吉本は反省し、メディアと仲良くすることが、劇場の日銭になる、劇場で芸の足腰さえ鍛えれば、メディアに出ても何をしてもいい、メディアと仲良くしよう、という考え方に変わった。

・今はテレビも見ない、みんながスマホ中心のこの今の時代の空気を日本吟剣詩舞振興会が本気で吸うか、吸わないかということ。

・昔は家族一緒にテレビを見ていた。今はスマホが家庭の中心に変わってしまった。子供や孫がスマホで何を見ているのかわからない。彼らの 10 年後、20 年後に日本を背負うとき、大変なことになるので、彼らが見るスマホの中に、武士道精神や、いいものを見せる、という意味で、開かれた方がいいと思う。

(久米)

- ・ネットで見てリアルに行く人は多い。
- ・UUUM は、ゴルフのレッスン動画でのし上がったようなもの。
- ・詩吟も、結局個別指導なので、動画だけではわからない。（なので習いに来る）
- ・生徒さんで動画に出たい方もいるはず（タレント志望など）。
- ・先生と生徒のやりとりが面白い。
- ・生徒の成長ドラマが見えるといい。

(鈴木)

- ・我々の一番の財産はコンクール。異なる流派が公財に集結するのはコンクールがあるから。
- ・全国大会には合吟コンクールがあり、独吟コンクール優勝者は全国大会で披露できるということも含めてコンクール生態系が公財活動の核。
- ・公財のコンクールには他の団体にない歴史と名誉がある。
- ・M1 グランプリはお笑いのコンクール。大崎さんにそのノウハウをお聞きし、我々のコンクールに生かしてもっと活性化したい。

(大崎)

- ・京都のお寺か神社コンクールを行うのはどうか。
- ・吉本時代、京都の「二条城」や「西本願寺」など、国宝級のところをお借りして映画祭を開催した。そういうところでやるのはありかと。そのとき、何かを新しくする必要があるので、世界的に有名な照明プランナーを、何とか無料で来てもらったりした。

(早淵)

・普通のコンクールは難しいが、グランドチャンピオン大会を開催する場合、そういうところでやったらいいかも。優勝しないとその舞台ではやれない、という特別感。

(大崎)

・グラミー賞と日本の〇〇大賞の違いは、会員の投票で決めるところ。日本は、スポーツ紙のライターや、社長の意見などアンダーテーブルの票が有効になるが、グラミー賞は、アーティストがアーティストを決める。それがいい。

(徳田)

・しかしながら、私たちが審査するほかに、外部識者の先生方も審査して欲しい。

(大崎)

・京都の和ろうそく職人の話。

・伊藤若冲のお軸はアメリカでも人気だ。若冲は、和ろうそくの下で絵を描いたはず。だから、和ろうそくで若冲を観たらどうか、という提案があった。美術館で、ガラス越しに電球の光で観る若冲は、ホンモノの若冲と出会ってはいないということ。＝コンクールで、もしお寺や神社を舞台にし「ちゃんとみせる」場合、演出も大切。ただ、お金がかかるかも。

(久米)

・地域の観光予算と組み合わせるとできるかも。詩吟のグランドチャンピオンを呼ぶのがあたりまえになる仕組みをつくれれば、やりがいが出る。なぜショパンコンクールにたくさん挑戦する人がいるかというと、そこで優勝すると、世界の名オーケストラと共演することができ、カーネギーホールやロイヤルアルバートやオペラでできるから。＝ステータスをつけることが重要。

(原)

・それぞれの地方にある良い詩（こきりこ節など）を詠うのはどうか。＝地域の宝

(久米)

・文化芸術予算はあまり落ちないが、産業振興や観光予算は出やすい。

(大崎)

・墨田区のIU 大学などで、学生が主になって、学生を巻き込み、クラウドファンディングもして、成功例をつくれれば。

(早淵) スーパーチームの校長をしているが、メンバーの資質が素晴らしすぎて、会員増加にはつながらない。見せ方はどうしたらよいか。

(大崎) やっちはダメなことだけ決めておいて、とりあえずやらせてみては良いのではないですか。若者は、ドラマを早回しで観る。音楽も8小節で判断している。その子たちにどう合わせるか。失敗の中から学び、最初は平凡な基礎だけとやらないとだめだよ、というのが分かっていない。

(早淵) 100人に一人くらいしか乗り越えられないが、乗り越えら子は今も続けている。

(久米) 昭和の子供たちは単純なことを続けることに慣れている。3年続けると脳が発火する。それは14歳までにそれを育てないといけない。その感覚がない子供が増えている。

(齋木) いま都立六本木高校で詩舞を教えている。その活動が部活でいい点として、演劇部とか、メインの部活を脱落した子が来てくれること。それで良いと思います。最初は基本が大事だが、最低限のことをやったら、いきなりお扇子を2枚持たせる。それで、5人いれば“梅の花“ができる、とか。みんなグループでやるのが好き。一期生が大学生になり、(自分の流派の)夜のお稽古に入ってきてくれた。

(久米) パフォーマンス書道など、一人でやるよりいいようですね。

(早淵) 自分の流派では、コンクール課題に関しては「階級の関係なしにお稽古していいよ」と言っているが、結果で逆転が起こった時に頭をかかえることがあります。

(久米) コンクールで階級なしでトライするのはいいと思う。TikTokでも「歌ってみた」「踊ってみた」ところからファンが増える。コンクールでも、習っていない人の枠を作ったら、すごい下剋上が起こるかもしれない。

(齋木) 六本木高校で、以前は外部指導員だったが、いまは部活指導員になったので、外部の行事に参加する際に、許可は取るが、学校の先生がいなくても OK になったので楽になった。

(久米) 動画などで「小さい子供がこんなことできる。」というのがヒットする。(新日本フィウール ヴァイオリンの HIMARI ちゃんが大人気。礼儀正しく、きちんとお辞儀する姿に感動。)

(早淵) 兵庫県で、幼少青年の発表会を行っているが、数年前からファミリーコーナーを作った。孫と一緒に舞うプログラムが大評判。舞いながら涙。必ず子供にメッセージを書いて

もらっている。

(久米) コミュニティ障害のある子供たちに、吟剣詩舞から疑似おじいちゃん、おばあちゃんはどうか。

もしくは疑似「孫」をかわいがる。一対一だとお金が大変そうだが、何人かで一人を応援して「歌い手にしよう！」とコンクールに出して、お着物や刀をプレゼント、など。

次の開催予定の確認

- ・日時：8月5日（月）16時～
- ・場所：一般社団法人 mother ha.ha 事務所

<アイデアまとめ>

●若年層へのアプローチ

- ・子ども食堂や学童で教える
- ・(e スポーツの例 若者からゲームを教えてもらうかわりに、礼儀などを教える) コミュニケーションが苦手な子供たちと、おじいちゃんおばあちゃんがお互いに学び合う
- ・ネットでアプローチして拡散させることで、リアルな観客増や、習いにくる人につなげる
- ・ドラマを早送りで見ると若者たちは、見切りが早いので、最低限のことをやったら、とりあえずやらせてみる（詩舞で、早々にお扇子を2枚持たせて、グループで梅の花など）
- ・海外で一度流行らせ、それを逆輸入する（日本人は海外からの逆輸入にとびつく傾向）
- ・マンガ
- ・小さい子供（天才ちびっこ）の動画投稿

●地域社会との連携

(新日本フィルの例)

- ・本拠地である墨田区の小中学校で毎年授業
- ・成人式でコンサート
- ・地元割引あり
- ・ふるさと納税なども使用

(コンクール会場として)

- ・有名な神社やお寺で開催＝名誉、特別感
- ・場所が固定されれば、その地域での観光予算などが期待できる可能性も

(各地域にある詩を取り入れる)

- ・地域の宝であるから、こちらも観光予算等が期待できる

●教育プログラムの拡充

- ・小学校で配られるタブレットの中に詩吟指導のものを入れる